

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第103号 (2023. 2. 5-2023. 2. 12)

◆ 参加者：海馬、しま・しましま、雷(らい)、水の眠り、Somekawa Yukio

「ZERO」かのん、菊池洋勝、しまねこくん、石原とつき、石川聡

岩瀬百、流天、うめたなな、svsvsv、何となく短歌、汐田大輝、花野

玖、むくみんママ、一筆居士、鴨川ねぎ、saurus、小沢史、雲心、秋

鹿町、西脇祥貴、みさきゆう、夕星風、元さん、すずしろゆき、梓

川葉、馬勝、おかもとかも、とるぼとる、天やん、こぼや七南子(不

眠症の猫、しろとも、うたたね凜、西沢葉火、石原とつき、たろり

ずむ、まきあき、さー、森内詩紋、みおうつたかふみ、涼閑、影薄き直

美、層乃ハコ、マキ苔空海、電車侍、まつりべきん、凧ちひろ、人見

式一、雪上牡丹餅、萩原アオイ、Ivutoppa、式定住佳、donkey、crazy

lover、のんのん、mugwort、岡村知昭、もゆら、金瀬達雄、line、森

川のと、Ryu san、徳道かつみ、藤井卓、Kaorin、蟻男(アリ)、抹茶金

魚、すずめ、棚場田敦也、とわさき芽ぐみ、生・存、相馬絵梨子、輪

井ゆう、夜間戦闘、斌、死神(シ)、汐音葉月、ミカンスキー、水須ゆ

き子、ちゃんまり、かなず(梨山 碧、太代祐一、ムーキヤット、ち

ゆんすけ、最中妙、ゆいん、カゲキ・ちやげぞう、ヨタレウルフコマ

ソン(仮、まつもとともこ)、もゆら、詩人にも物書きにもなれない

凡人、嶋村らび、閑漢、銀浪、ゆり、月波与生(九九名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

次の日を冷静に支配するな夜 相馬絵梨子

泣くことで流れ始める川がある 涼閑

つめたさの単位としてのひややつこ とわさき芽ぐみ

インターホン越しでも春と分かる声 しまねこくん

手袋を買おう 繋ぐ手もないし 蟻男(アリ)

大根の下半分を好む鍋 みおうつたかふみ

ぬるいからふーふーいらないます太陽 とわさき芽ぐみ
深夜にも春一番は吹いてくる みおうたかふみ
正直なトンネルのある保健室 秋鹿町

雲龍型で電子決済 馬勝

サーバーが重たくなつて窓の雪 Ryūsen

湖へあごから順に滑つてく おかもとかも

エプロンのどこをつかむと雲なのか 海馬

伊予柑のカーブをうまくなぞる人 しろとも

流氷に乗って戻らぬ旅にでる 水の眠り

流氷の上は禁煙なんですか しまねこくん

適切なカレーでマスを埋めなさい 秋鹿町

肩肘を張ってまだらなおるすばん 西脇祥貴

ナポリタンのフォークはタイムマシンの鍵 すすしろゆき

スイトピー昔むかしの包み紙 小沢史

定型という名のおばあちゃんの膝に甘える 岩瀬百

終わつたら犬に嗅がせてゐる踏絵 しまねこくん

洗われて茶碗が海を思い出す しま・しましま

ヘリの音でマラソンが動く一日 雷

バレンタイン 箱いっぱいの 友の優しさ かのん

住職の説ける阿吽の兔かな 菊池洋勝

哲学非常勤講師(自称)なりに冷やし中華は見くびった 石

原とつき

うとうとは水のなかの音のんしゃ 石川聡

春一番ホケキョと鳴いてみたけれど 流天

春菊やあたしはいつも少数派 syusyu

超越瞑想していて犬に絡まれる 汐田大輝

怖いもの知らず装ふ猫の恋 花野玖

恋多き女最後は若き日の恋に泣く むくみんママ

雲上へ抛る飴色のチョコレイト 鴨川ねぎ

cola + milk = paint of pink 宛 a amonow

薄明の白梅白し父の命日 雲心
気づいたら貴方好みの部屋であり 梓川葉
虐められ籠る春待月のオセロ 天やん
早春の地べたに這うはオオイヌノフグリ こばやし南子
吊り草のうえスパイダーが網を張り うたたね凜
建国日マーベル映画と化す時代 MARVEL
早春に呑気なクマも寝坊する 屑乃ハコ
雨に融け 忘れらるるや 春の雪 電車侍
輝いて駿台法科も歌に泣く まつりぺきん
バス停にごめんと言わせたいのだが 西沢葉火
流水に乗って戻らぬ旅にでる 水の眠り
髪結いの脚に男の名の刺青 人見式一
ボクの知るキミの名字が旧姓に 雪上牡丹餅
まだ煙草残りし箱潰す踏絵 hyutoppa
それでもいいそれでいいから会いに行く 弋定住佳
埋没か荒れ野の果てか行く末は dotkey
換気だよ身が凍るんじや我慢しろ crazy lover
パフ入りのちよこれいとで紛らわす のんの人
すき間よりわらう雪割草の八重 mugwort
チャーシュー麺体操からの平泳ぎ 岡村知昭
ペンギンに論破された日(なんて日だ) 金瀬達雄
見たんでしょ? 媚びへつらっている雪を 藤井阜
雪景色は十分前のあなたでしようか 抹茶金魚
胃が消えるキリリと音を立てたきり 棚田敦也
快速急行の速さ祖母置いて 生・存
ともすると言葉とこり落つこちる 輪井ゆう
冬の空高いわばんつと割れそうと、君 夜間戦闘
眠る前一杯のお茶で火傷 斌
春の月は来ない待ち人をも照らす 汐音 葉月
飼いだの素通りするや爛熟し ミカンスキー
犯罪心理解くキヤバ嬢グラスには白湯 梨山 碧

すべきことしたなきすぎてする散歩 太代祐一
アラファイフも恋してマフラーピンク色 ムーキヤット
笑い声とまらぬ家のドアチェーン ちゅんすけ
春を待つ 夜風冷たく 帰宅の途 カゲキ・ちやけぞう
添い寝した塵の声音に匂い無し ヨダレウルフコマソン
愛も奥歯もグラグラと まつもともとこ
手羽先になりたいお腹空いたので 嶋村らび
知恵の輪が外れる音で目が醒める 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

行くあても帰る気もなくここにいて冷たくなっていくふと
ももも さー

自販機のホット飲料減っていて一方的な春の宣告 さー
もし雨がほんとは降ってないとして、赤い傘を手放せるだ
ろか みさきゆう

ロンドンの空の色した宝石をツバメは運ぶ王子の瞳に み
さきゆう

タメロでいいよ一浪してるけど え、二浪なの・・・なん
ですか たろりずむ

誤字だったけれど必殺技よりも心殺技のほうが効きそう
たろりずむ

いろいろと今日はダメですこんな日がずっとずっとでつま
り日常 何となく短歌

失敗は成功の母 エジソンは急がば回れとタツキングする

Somokawa Yukio

予告篇観ているようだ繰り返し再生される君の去り際 う
めたかな

北風を肩を竦めてふくら鳩西陽を睨み留めようとして 一
筆居士

幼子の手を取り歩いた遠き日々面影映る寝顔いとしき 夕
星 風

夕暮れが街のざわめき遠ざけて何処へ行くのか不思議な時
間 元さん

定位置で一日終わる今日もまた明日明後日もこれから先も
とるはどーる

欠け罇た麦酒杯一つ壁際にうちやられ嗚呼此処は戦場 森
内詩紋

濃紺に金の一刷毛流れ星刹那に茜夜明け前とは 影薄き直
美

五線譜に流る雨粒くっついて和音と啼くや刻む玉ねぎ ✕
*苔空海

育児中主婦が一日休めるは∞度超えた週末 風ちひろ
帰宅時の ぬるい溜め息 詰め込んでバスは行き交う 氷

雨の中を 一筆居士
雪の中向かう小さなシヨコラトリーいつ渡せるかも分から
ぬチヨコを 萩原アオイ

死にたいと思ひながら飯を食う生ぬるい血が彷徨き回る
nine

この胸が冷たく凍る愚かさを夕陽に溶かせば早く暮れゆく
森川のと

間違った道を歩いてきたんだね此処であたしと会うってこ
とは 鈴音

射干玉の夜に右回る回転木馬ぼうつと見てた Kaorin

魔が差して付き合ってみたふたり片方あきたらそれで終わ
り death すすめ

畜生め今年も確定クリぼっち寝床で一人 零す涙よ 死
神 SHO

PSAの値は0.4でした 次の兼題は「風光る」 水須ゆき
子

枯葉燃ゆピルエットのごとひとりでも踊れ ちゃんまり
人のため人に斬り斬られ味気なく 辻斬り上等ツイッタラ
ンド 最中妙
君と見る景色はどれもシロップで同じ景色が味気ない今
ゆいん
好かれても好きではなくて保留する齧歯類女子少しあこが
れ 水の眠り

◆ 詩

星空に手を伸ばす
つかめそうなのに
届かない
あの日見た星空
二人で見た星空
黙って見上げた星空
あの日と変わらない星空
変わってしまったのは
私達 (もゆら 詩人にも物書きにもなれない凡人)

◆ 作品評から

胎児型以外の寝方知らなくて今夜も毛布への収まりがいい。
一寒梅

〜寝つきはいい方なので恰好はあまり意識しないがそれ
でも年に数度は眠れずに姿勢をあれこれ考える。そして宇
宙のこと考える。収まりがいいのだろう。(月波与生)

好かれても好きではなくて保留する齧歯類女子少しあこが
れ 水の眠り

〜オジサンだったからねずみ男なのに (笑) (閑漢)

美食家も冬もTENGAも鍋に消え 秋鹿町

〜いまやスーパーマーケットでフツツに売られている
TENGA であるが日常会話で使ってもいい言葉なのだろうか。
この句はTENGAの意外性を上手に吸収していると思う。(月
波与生)

ロンドンの空の色した宝石をツバメは運ぶ王子の瞳に み
さきゆう

〜ロンドンブルートパーズという宝石なこと、初めて知
りました。深いブルーが素敵なお色ですね。幸福の王子は
悲しすぎるけれど大好きなお話です。王子の像の瞳にツバ
メが宝石をはめるって、悲しいラストとは違って、ゆうさ
んとツバメの優しいところに救われました。とてもすきで
す(銀浪)

〜宝石というテーマからこのお話が連想されて、違うラ
ストを迎える希望もみえるなんて感動しました(ゆり)

畜生め 今年も確定 クリぼち寝床で一人 零す涙よ 死
神 SHO

〜サンタ！職務怠慢やぞ！言つとききましたんで、今年は
大丈夫ですっ (蟻男(アリオ))

泣くことで流れ始める川がある 涼閑

〜何かが終わり 泣いているならば、

何かの始まりとなる 考えるだけで救いになるな と思
いました。(蟻男(アリオ))